

学習シラバス

第1学年

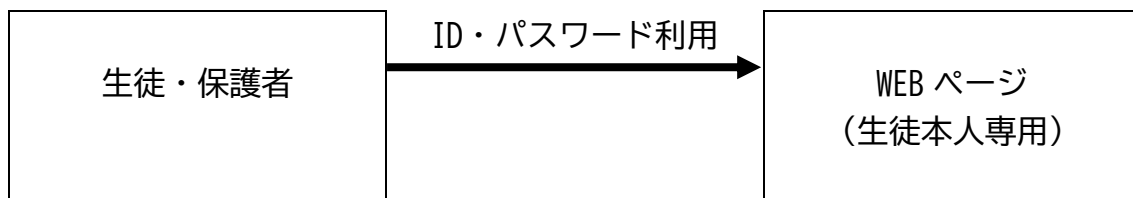


令和7年度

朝霞市立朝霞第一中学校

<テスト返却について>

教科やテストによっては、AI 自動採点システムによる自動採点を行っております。そのため、WEB 上での返却をする場合がございますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。



- ・ I D ・ パスワードは Microsoft アカウントを利用します。
- ・ パスワードは一人ひとり異なります。大文字・小文字・数字の4種類から生成されています。
- ・ 本人専用のページにアクセスし、答案を閲覧してください。

※パスワードは絶対に他人に教えないでください！

**※スキャン済みの解答用紙原本は、学校にて適切に処分
します。(生徒には返却しません)**

1 年生 国語の学習の進め方

評価の方法

3 つの観点を①, A, B, ②, C の 5 段階で評価します。ただし、通知表は A, B, C の 3 段階で通知されます。

① : 十分に満足できるもののうち特に程度が高い A : 十分満足できるもの

B : おおむね満足できるもの ② : 努力を要するもの C : 一層努力を要するもの

①知識及び技能

漢字テスト、定期テストにおける言語に関する点数、硬筆・書き初めなどをもとに評価します。

②思考力、判断力、表現力等

作文活動、授業内で行うスピーチ、定期テストの読解問題の点数などをもとに評価します。

③学びに向かう力、人間性等

ノート・ワーク等の提出物、課題作文、発言や話し合い活動等の授業態度、暗唱テストなどをもとに評価します。

1 学期の学習

○詩「朝のリレー」○詩「野原はうたう」○物語「はじまりの風」

○話す聞く「情報を聞き取り、要点を伝える」○話す「話の構成を工夫しよう」

○言語「音声の仕組みや働き」○漢字「漢字の組み立てと部首・漢字に親しもう」

○説明「ダイコンは大きな根？」○説明「ちょっと立ち止まって」

○言語「指示する語句と接続する語句」○書写（硬筆）

○詩「空の詩・三編」○言語「さまざまな表現技法」○言語「言葉のまとまりを考えよう」

○総合（SDGs）「情報収集の達人になろう」○読書「本の中の中学生」

2 学期の学習

○物語「大人になれなかった弟たちに」○小説「星の花が降るころに」

○書く「項目を立てて書こう」○聞く「聞き上手になろう」

○言語「方言と共通語」○漢字「漢字の音訓・漢字に親しもう」

- 書く「根拠を明確にして書こう」○言語「言葉の関係を考えよう」
- 詩「大阿蘇」○古典「古典の世界」○古文「いろは歌」
- 古文「蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から——」○漢文「今に生きる言葉」
- 話す聞く「話題や展開を捉えて話し合おう」○書き初め（毛筆）

3 学期の学習

- 小説「少年の日の思い出」○随筆「二十歳になった日」
- 言語「単語の性質を見つけよう」○漢字「漢字の成り立ち」
- 詩「ぼくが　ここに」
- 言語「言葉の単位」○言語「文の組み立て」○言語「単語の分類」

令和7年度 社会科 年間シラバス

朝霞市立朝霞第一中学校

学 年	1年	教科 書	地 理（新しい地理）東京書籍 歴 史（新しい歴史）東京書籍 地図帳（中学校社会科地図）帝国	問題集 地理・歴史（新学社）
--------	----	---------	---	----------------

1 学習到達目標

中学校で学ぶ「社会」は、地理的分野・歴史的分野・公民的分野に分かれます。
1年では、地理的分野の半分と歴史的分野の室町時代までを学習します。
中学校社会科の教科としての目標は以下の4点です。
①広い視野に立ち、社会に関する関心を高めること。
②資料に基づいて多面的、多角的に考察すること。
③日本の国土と歴史について理解と愛情を深めること。
④国際社会を生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うこと。
三分野の学習を通して、これらの達成を目指していきます。

2 学習方法

社会科には各単元の目標があり、そこから各時間の学習のねらいや目標が設定されています。単元を貫く学習課題や、各時間の学習課題を意識しながら授業を受けましょう。そのねらいにせまるために、講義だけでなく、自分で考えたり、自分の考えを述べたり、友達と交流したりする場面に授業内に設定していきます。考えたこと、資料から読み取ったこと、グループで協働して行う課題解決の際の意見など、積極的に表現をしていきましょう。

①自分の理解状態をつかむこと。
学習する時に大切なことは、いつも「どこが分かっているのか、どこが分かっていないのか」をはっきりさせることです。プリントやノートの脇に言葉の意味をメモしたり、教科書で調べたりして基礎的知識を確実にしていくことが大切です。

②学習したことどうしの関係をつかむこと。
学習することとは、バラバラな知識を詰め込むことではありません。自分がそれまでに知っていることがらと結びつけることが大切です。イメージマップを使って知識をつなげていく学習も効果的です。

③今の社会との関わりを考えること。
私たちが「今生きている土地」や、「今に至るまで」の先人の歩みについて社会科では学習します。私たちが今生活している社会とのかかわりを考えながら学習してください。

3 家庭学習

社会科では予習よりも復習に力を入れてほしいと思います。

①すぐに復習する習慣をつける。
・1回の授業の内容はそれほど多くはありません。その日や週のうちに学習したところを自分に合った形で復習しましょう。

②問題集を繰り返し解く。
・試験前は問題集を繰り返し解きましょう。解く→間違える→間違えたところの復習を教科書やノートでする。→解きなおす。のサイクルを作ってみてください。

③単元ごとのレポート課題などを真剣に取り組む。
・1つの単元を学習した後に実施するレポート課題等、一生懸命取り組んでみてください。その単元のよい振り返りになりますし、改めて学習したことを関連付けながら復習ができるはずです。

4 学習内容及び評価について

月	学 習 内 容	試験	評価観点	評価の場面・方法
4	オリエンテーション < 地理 > 1 世界の姿	中間試験	主体的に学習に取り組む態度 ○社会的事象への関心を持ち、その課題に意欲的に取り組み、よりよい社会について考えていこうとする姿勢が見られるか。 ・課題に対し積極的に解決しようという姿勢で臨めたか。 ・学習を通じて新たな課題を持つことができたか。 ・学習した内容の到達・未到達点についての具体的な分析をすることができたか。 ・未到達な内容についてどれだけ努力できたか。	・ワークシートへの記入状況 ・授業態度（発表等の積極性、忘れ物の状況） ・提出物の状況 ・学習課題への取り組み方
5	2 世界各地の人々の生活と環境	期末試験	思考・判断・表現 ○社会的な事柄について、自分で問題を見つけ、それについて多面的、多角的に考え、公正に判断し、適切に表現することができたか。 ・課題に対しデータに基づいて多面的に考察することができたか。 ・課題を追求する方法を工夫して考えられたか。 ・学習を通して、自らの生活と照らし合わせ新たな課題を持つことができたか。 ・思考を問う問題を解くことができたか。	・記述式テストの状況 ・レポート作成状況 ・グループワークの取り組み状況 ・自分の考えの発言、記入状況 ・提出物の状況
6				
7	< 歴史 > 【古代までの日本】 1 世界の古代文明と宗教のおこり	中間試験	知識・技能 ○各種の資料(教科書・地図帳・その他の資料)を適切に選択し、効果的に活用できる。 ・資料の活用方法を身につけることができたか。 ・さまざまな統計・歴史資料や地図などを読みとることができたか。 ・調査した内容をわかりやすく伝えることができたか。	・資料を活用した各テストの状況 ・提出物の状況 ・ワークシートへの取り組み状況 ・授業内の学習課題への取り組み
9	2 日本列島の誕生と大陸との交流			
10	3 古代国家の歩みと東アジア世界 【中世の日本】 1 武士の台頭と鎌倉幕府	期末試験		
11	2 東アジア世界との関わりと社会の変動	学年末試験		
12	< 地理 > 第3章世界の諸地域 1 アジア州			
1	2 ヨーロッパ州 3 アフリカ州			

2	4 北アメリカ州			・調査した内容を工夫してまとめることができたか。	み
	5 南アメリカ州			・資料を読みとる問題を解くことができたか。	
3	6 オセアニア州	次年度	知識・技能	○社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。 ・知識や理解を問う問題を解くことができたか。	・定期テスト ・小テスト

4 評価について

(1) 評価の観点 (各観点 A～C の 3 段階)

① 知識・技能

② 思考・判断・表現

③ 主体的に学習に取り組む態度

A→十分満足している

B→おおむね満足している

C→「B」に達していない

(2) 評定

上記の 3 つの観点の A～C の組み合わせにより、「教科として 1～5 の評定がつけます。また、埼玉県中学校教育課程指導・評価資料に基づいて評価します。

朝霞第一中学校 第1学年 数学の学習の進め方

～ 数学の授業を通してこんな生徒になってほしい ～

- ・わからないことをわかろうと、努力を続ける生徒
- ・物事をすばやく処理したり、筋道を立てて考えることのできる生徒
- ・思いやりの気持ちを忘れずに、まわりの人と協力できる生徒

1. 授業への取り組み方

① 確認テスト

- ・単元テストの補足で確認テストを行います。毎回きちんと取り組んで、数学の基礎基本をしっかりと身につけましょう。

② 単元テスト

- ・単元のまとめとして、単元テストを実施します。

③ ノートの取り方

- ・問題練習の答え合わせは、すばやく、確実に行いましょう。分からないままにしておいたり、間違いを直さないでいると、力になりません。
- ・図は大きくていねいにかきましょう。図をきちんとかくことは、数学の力を高めることにつながります。
- ・教科書の参考例(マイノート)も見てください。
- ・授業の中で気がついたことや、考えたことは、自分の言葉でまとめるようにしましょう。

④ 話の聞き方

- ・先生の話で大事な点は、メモをとるなど工夫すると、数学の力がつきます。特に数学の式表現や独特の言い回しなど、教科書にはない説明でも大事な内容があります。話をしっかり聞くことを、日頃から心がけましょう。
- ・友達の意見を聞くときは、自分の考えと比較して聞きましょう。自分の考えが、より深くなります。

2. 提出物について

① ノート

- ・ノートは学習したことを、どれだけきちんと身につけようとしているのか、その人の努力する姿勢が見えるものです。たくさん間違えているからダメだということはありません。 粘り強く取り組んでください。自分の考えや学んだことをしっかりとまとめるようにしましょう。

- ・途中式を書くようにしましょう。
- ・筆算や、計算メモなども残しましょう。きれいに消す必要はありません。
- ・間違った問題には、必ず赤ペンで直しをしましょう。
- ・わからなかった問題でも、解答を確認して考え方を記入しましょう。

② 課題プリント

- ・定期テストの直し
- ・長期休暇前の課題 などいくつか提出課題を出すことがあります。期日を守って丁寧に取り組むようにしましょう。

3. 家庭学習について

数学は復習に力を入れて取り組んでほしい教科です。特に授業で取り組んだ問題を家でもう一度解いてみて、もしも解けなかったら、自分が分かったつもりになっていた問題です。力を入れて復習してみてください。次の授業への準備につながります。

4. 評価について

3つの観点の評価します。

① 知識・技能

数量や図形の基礎的な概念等を理解し、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。

② 思考力・判断力・表現力

事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に判断・表現をすることができる。

③ 主体的に学習に取り組む態度

忘れ物、問題集の提出・内容、授業中の挙手発言、意欲的な授業への取り組み、レポート等、総合的に判断します。私語などの授業を妨害することは大きく減点されます。

どの観点でも、定期テスト・単元テスト・確認テスト・授業での取り組みを中心に、評価項目にあった内容部分の得点をもとに評価しています。

【評定について】

各評価の観点ごとの評価をもとに総合的に判断し、5段階の評定で評価します。

【学年評定について】

1学期から3学期までの観点別評価と評定をもとに、学年の観点別評価（A・B・C）と評定（5段階）を行います。

「埼玉県中学校教育課程指導・評価資料」に基づいて評価します。
詳細は埼玉県教育委員会のホームページでも確認できます。

【1年間の学習内容】

[

1 年間の学習内容]

0章 算数から数学へ

- ・ 整数の性質

1章 正負の数

- ・ 正負の数 ・ 加法と減法 ・ 乗法と除法 ・ 正負の数の利用

2章 文字と式

- ・ 文字を使った式 ・ 文字式の計算 ・ 文字式の利用

3章 方程式

- ・ 方程式とその解き方 ・ 1次方程式の利用

4章 比例と反比例

- ・ 関数 と 比例・反比例 ・ 比例の性質と調べ方 ・ 反比例の性質と調べ方 ・ 比例と反比例の利用

5章 平面図形

- ・ 図形の移動 ・ 基本の作図 ・ おうぎ形

6章 空間図形

- ・ いろいろな立体
- ・ 立体の見方と調べ方 ・ 立体の 体積と 表面積

7章 データの分析と活用

- ・ データの整理と分析 ・ データの活用 ・ ことがらの起こりやすさ

三角定規・コンパスが必要になります。

理科 1 学年 シラバス

1. 学習目標および年間計画

- (1) いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら，生物の観察と分類の仕方，生物のからだの共通点と相違点を理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。
- (2) 身近な生物についての観察，実験などを通して，いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに，生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。
- (3) 身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら，物質のすがた及び状態変化，水溶液のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。
- (4) 身のまわりの物質について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現する。
- (5) 身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら，光と音，力のはたらきを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。
- (6) 身近な物理現象について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，光の反射や屈折，凸レンズのはたらき，音の性質，力のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。
- (7) 大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら，身近な地形や地層，岩石の観察，地層の重なりと過去の様子，火山と地震，自然の恵みと火山災害・地震災害を理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。
- (8) 大地の成り立ちと変化について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，地層の重なり方や広がり方の規則性，地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現する。

理科 I		理科 II	
月	項 目	月	項 目
4	単元1 いろいろな生物の共通点 1章 生物の観察と分類のしかた	4	単元2 身のまわりの物質 1章 身のまわりの物質とその性質
5		5	
6		6	
7	2章 植物の分類	7	2章 気体の性質
8	単元3 身のまわりの現象 1章 光の世界	9	
9		10	3章 水溶液の性質
10		11	4章 物質の姿と状態変化
11		12	単元4 大地の変化 1章 火をふく大地
12	2章 音の世界	1	
1	3章 力の世界	2	
2			3章 地層から読みとる大地の変化

2. 評価の観点・方法

① 知識および技能

☆物理現象や化学変化、生物について、地学的な内容について基礎的な知識を身につけ理解を深められたか、および観察・実験の基本操作の習得、観察・実験の方法についての評価項目です。

○小テスト、定期テストおよび器具の扱い方、観察・実験の手順、データの正確さ、レポートの内容、実技テストなどから評価します。

② 思考力・判断力・表現力

☆自然に関する事象や現象について、科学的に筋道をたてて考え、実験の結果を推察したり、結果から規則性や仕組みなどを見いだしまとめる力についての評価項目です。

○観察・実験のレポートや授業の発言内容、テストの記述内容・正答率、プリントの記入状況などから評価します。

③ 学びに向かう力

☆物理現象や化学変化、生物について、地学的内容について興味・関心を持ち、積極的に調べたり考えようとする態度についての評価項目です。

○授業中の発言内容や授業への貢献度、集中度、ノートの記録状況(書き方、まとめ方)、観察や実験に取り組む態度、ワーク等の提出物から評価します。

以上の3観点の評価を総合し、5段階で評定します。

「埼玉県中学校教育課程指導・評価資料」に基づいて評価します。
詳細は埼玉県教育委員会のホームページでも確認できます。

3. 1 学年理科の学習のしかた

- ① 理科の授業は自然現象の観察や実験が中心になります。積極的に実験器具や観察用具に触れ、興味・関心を高めながら授業に参加することが大切です。
- ② 実験・観察の目的を理解し、結果、考察までの見通しを持ち、予想を考えてから実験操作を行うことで、実験を深い学びにつなげましょう。
- ③ 実験の考察は班単位で話し合い、考えを深めたあと、必ず自分の言葉でかきましょう。
- ④ 授業中に配布されたプリント類は、なくさないようにノートにきれいに貼り付けましょう。理科1と理科2の授業用ノートは別々に用意してください。
- ⑤ 黒板に書いたことは必ずその時間にノートに記録しましょう。
- ⑥ 授業の進度に合わせ、ワークを家庭学習として取り組みましょう。繰り返し問題を解くことが出来るようにワークノートを用意しましょう。間違った問題は、模範解答とよく照らし合わせて、正答の意味まで理解することが大切です。

音楽科	第1学年	1年間の学習内容とねらい
-----	------	--------------

音楽科の達成目標

- 音や音楽への興味関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする意欲を身につけさせる。
- 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などや、速度・強弱の働きを知覚し、音楽の持つ曲想や美しさを感じ取る能力を身につけさせる。
- 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、曲に対する自分の解釈やイメージを、音を通して適切に表現していくため、発声や楽器の扱い、読譜力などの基本的な表現の技能を身につけさせる。
- 楽曲の雰囲気や曲想と諸要素のはたらきによる効果、我が国の音楽および世界の諸民族の音楽の特徴などを感じ取らせる。

評価の観点・方法

- 【評価の観点】**
- 知識・技能
 - 思考・判断・表現
 - 主体的に学習に取り組む態度
- 【評価の方法】**
- 実技テスト（歌唱・器楽）
 - 実技テストのふりかえりシート
 - 鑑賞ワークシート
 - 自己評価・相互評価
 - 授業の取り組み
 - 定期テスト（年3回）

特色ある学習方法

- VTR等を利用した合唱の取り組み（合唱コンクール・卒業式の映像など）
- 伝統音楽を大切にする態度を育て、和楽器や郷土の音楽を取り入れた学習

	学習内容	学習のねらい
一学期	○《校歌》 【歌唱】 ○《夢の世界を》 【歌唱】 ○ヴィヴァルディ：《春》 【鑑賞】 ○浜辺の歌（心の歌） 【歌唱・鑑賞】 ○アルトリコーダー《喜びの歌》など 【器楽】	○新しいクラスの仲間と歌声を合わせ、歌う楽しさを味わい、音楽活動への意欲を高める。 ○歌詞の内容と曲想とのかかわり、曲の構成などの特徴を理解し、表現を工夫し合わせて歌う。 ○混声三部合唱を創り上げる手順をつかむ。 ○合唱のパート練習ができるようにする。 ○諸要素の働きを理解し、曲想とのかかわりを感じ取りながら、弦楽合奏の響きを鑑賞する。 ○8分の6拍子のリズムと伴奏の波の動きを感じながら、情景を思い浮かべて歌う。 ○アルトリコーダーの運指と基本的な奏法に慣れ、響きを聴きながら演奏する。
二学期	○合唱コンクールの学年合唱曲 クラス曲 【歌唱】 ○《赤とんぼ》（心の歌） 【歌唱・鑑賞】 ○シューベルト：《魔王》 【鑑賞】 ○アルトリコーダー《聖者の行進》など 【器楽】	○声部の役割と全体の響きとの関わりを感じ取り、音楽の構成を生かした表現を工夫する。 ○日本語のもつ美しさと抑揚が生かされた旋律を味わい、表現を工夫して歌う。 ○諸要素の働きを理解し、曲想とのかかわりを感じ取りながら、多彩な声の表現を鑑賞する。 ○アルトリコーダーの運指と基本的な奏法に慣れ、響きを聴きながら演奏する。
三学期	○箏曲「六段の調」《さくらさくら》 【鑑賞・器楽】 ○卒業式歌《群青》 【歌唱】	○日本の伝統的な和楽器について触れる。 ○箏の基礎的な奏法に慣れ、響きを聴きながら演奏する。 ○歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きを生かして表現を工夫する。

令和7年度 美術科シラバス

・学校教育目標

- ・自ら学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・健康につとめる生徒

・美術科目標

- ・作品への理解や見方を深め、よさを感じ取る活動
- ・対象を深く見つめ感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出す活動
- ・楽しく美術を主体的に取り組む活動

・生徒にめざしてほしいこと

- 1 感動する心を大切にし、心を豊かにする。
- 2 自分らしさを知り、表現や工夫する能力を身につける。
- 3 計画的に制作をし、粘り強く最後まで仕上げる力を身につける。

・学習内容

A 表現	(1) 絵や彫刻に表わすことによる発想や構想+創造的技能		(2) デザインや工芸に表わすことによる発想や構想+創造的技能	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年	○	○	○	○
第3学年	○	○	○	○

	1年	2年	3年
1学期	人の動きに着目し、しっかりと対象を観て動きの面白さを表現する作品を制作する。	身近なパッケージデザインについて学び、お菓子のパッケージを制作する。	自分自身を客観的に見つめ、内面的なテーマを踏まえ、自画像を制作する。
2学期	木材の特性を学習し、やすりで削る、彫刻刀で彫り、カトラリーを制作する。 幾何学図形などの組み合わせ配色を工夫し、自分らしい模様をコースターに表す。	日本の伝統的な技法を活用し、想いのこもったお面を制作する。	仏像について学習し、ものに祈りや願いを込めることの意義について考え、仏像をプロデュースする。
3学期	文字の形の魅力を感じ取り、自分の名前を用いてレタリングを行う。	版の種類を学習し、シルク数リオンを用いた基礎的な表現を使って自分らしく表現する。	意図をもって技法を選択し組み合わせながら感謝の気持ちをポップアップカードで表現する。

・評価の方法

作品、制作活動の観察、作品制作の過程、活動の様子、鑑賞プリントの記録

・三つの達成目標の関わり

学力	制作レポートの記述やその日の内容の確認など、文章で表現する。
規律ある態度	授業規律や話を聞く態度を身につける。その場に応じた指導と助言により、生徒の規律ある態度の育成に努める。

保健体育科学習案内

【評価の進め方】

※各観点別について（各選択種目の総合点で算出）

8割達成⇒A, 5割達成⇒B, 3割以下⇒C

※観点別の内容について

◆知識及び技能

- ①授業内容やルール understanding 度
- ②技能テスト
- ③授業の観察（ゲームの様子等）

◆思考力、判断力、表現力等

- ①授業の観察（工夫した練習、課題を克服する練習選択、仲間へのアドバイス）
- ②学習カードの充実度

◆学びに向かう力、人間性等

- ①体育授業の参加状況（欠席や見学の回数）
- ②授業の観察（発言・行動・積極性）
- ③学習カードの内容

※評価は、総合点で算出する。

【1学期の学習内容】

	1年	2年	3年
4月～	・オリエンテーション ・新体力テスト ・体育祭練習 ・器械運動（マット運動・跳び箱） ・水泳		
5月～			
6月～			

保健

【2学期の学習内容】

	1年	2年	3年
9月～	・陸上競技（ハードル・走り幅跳び・走り高跳び） ・球技（ソフトボール・バレーボール・バドミントン） ・武道（柔道） ・ダンス（現代的なリズムのダンス）		
10月			
11月～			
12月～			

保健

【3学期の学習内容】

	1年	2年	3年
1月～	・武道（柔道） ・ダンス（現代的なリズムのダンス） ・球技（サッカー・バスケットボール）		
2月～			
3月～			

保健

【自主学習の仕方】

- 昼休みの運動、部活動での運動、放課後の運動を通して体力強化を図る
- スポーツをテレビや現地で観戦し、関心を高める。

令和 7年度 技術・家庭科(技術分野) シラバス

I 学年

◆技術分野の目標◆

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

【学習内容】

技術分野は、「A 材料と加工の技術」、「B 生物育成の技術」、「C エネルギー変換の技術」、「D 情報の技術」の4つの領域で構成されています。各領域において、一人ひとりが学習できるように教材・教具を用意し、製図、製作、整備、操作などの実習を通して、実践的・体験的な学習活動を進めていきます。

◆3 年間での学習◆

- | | | |
|------|---|------------|
| 1 年生 | ガイダンス、生物育成に関する技術を利用した栽培、材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作 | 合計 35 時間 |
| 2 年生 | エネルギー変換に関する技術を活用した製作品の設計・製作、情報とコンピュータ | 合計 35 時間 |
| 3 年生 | プログラムによる計測・制御作品の設計・制作、情報セキュリティーとモラル | 合計 17.5 時間 |

【授業の約束や用意するもの】

技術科では機械類、刃物類、電気、コンピュータなどを取り扱って実習するため、安全に充分留意するとともに、危険のない行動を進んでできるようにしましょう。また、教科書、学習ノート、タブレット、その他指示されたものは毎回持ってくるようにしましょう。

【評価の観点・方法・基準】 次の3つの観点で評価をします。

(1) 「知識及び技能」

作業や実習計画案への積極性、毎時間の学習の取り組み状況（発言等）、作品の製作や実習を通して、基本的な技術が身についたかどうかをレポートやテスト等で評価します。また、その技術を生活に生かしていくことができるかを学習過程における技術の習熟度状況、完成するまでの作品や実技テスト、自己評価などで評価します。

(2) 「思考力・判断力・表現力」

生活の中から材料と加工の技術と安全に関わる問題を見いだして自ら課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、レポート等で表現するなどして課題を解決する力を評価します。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

安全な生活や社会の実現に向けて、課題の解決に話し合い等で主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしていることを話し合い活動やレポート、自己評価、定期テスト等で評価します。

1 年生では、はじめにガイダンス（3年間を見通した学習内容の説明等）を受け、生物の育成を学び、実際に植物を育成します。さらに材料と加工の技術では木材加工を行い、製図を含め、木工加工の基礎的知識および技能を習得します。

☆ 年間計画 ☆

月	章	学習内容	学習のねらい
4	ガイダンス	○ 3 年間の技術・家庭科の内容について	・ 技術・家庭科の学習内容について理解する ・ 学習の準備物・心得について理解する ・ 技術の進歩や情報の働きなどを理解する ・ 丈夫な構造を工夫し、より良いものづくりについて考える
5	生物育成	○ 生物の生育環境と育成技術 ○ 生物育成に関する技術を利用した栽培	・ 生物の育成に適する条件と、育成環境を管理する方法を理解する ・ 生物育成に関する技術を理解する ・ 栽培を生活に生かすことができる
6	材料と加工に関する	○ 身の回りの木製品を調べよう ○ 制作品の決定 ① 制作品の材料について ② 製図の基本について ③（等角図、正投影図）の書き方 ○ ④ 設計図の完成	・ 木製品の機能はたらきについて理解する ・ 木製品をつくる上での工夫について調べる ・ 材料の性質や加工法について理解する ・ 木製品と金属、プラスチックの違いについて調べる ・ 機能・使用条件を考慮した作品にする ・ いろいろな材料について考える ・ 個々に応じて工夫する点を考える
7 9	技術	○ 構想図通りに制作しよう ① 板にけがきをする ② けがき線に沿って切断する ③ 部品を加工する ④ 組み立てをする ⑤ やすりがけで仕上げをする ⑥ 塗装をする ⑦ 製作のまとめ	・ 材料表を作製できる ・ 工程表を作製できる ・ 製作に必要な工具について調べることができる ・ きちんと材料取りができる ・ 道具を正しく使用できる ・ 塗装の目的を理解する ・ 製作を終え今後の課題を考える
10	まとめ	○ 技術を受けてきてのまとめ ① 生活と資源との関わり ② エネルギーの利用の仕方 ③ 技術と環境の関わり	・ 製品に使われている資源について理解する ・ 製品を製作するために利用されているエネルギーを理解する ・ 限りある資源をどのように使うか考える ・ 環境に優しい生活ができるように生活を工夫できる

【家庭分野の目標】

衣食住に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

【評価の観点・方法】

<評価の観点>

「知識・技能」「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

<評価の方法>

①「知識・技能」

「知識」については、実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識を身に付けているか、また、生活と技術とのかかわりについて理解しているかどうかを評価します。主に、学習プリントの記入状況、定期テストなどを評価します。

「技能」については、実際の生活の場面で必要とされる基礎的な技術が身に付いたかどうかを評価します。主に、学習過程における技能の習熟状況、完成した作品などにより多面的に評価します。

②「思考・判断・表現」

習得した知識や技術を積極的に活用し、生活を工夫したり創造したりする能力を評価します。主に、既習事項の活用状況や実際の生活の場で自分の考えを深め、工夫したり、創造したりする状況などにより多面的に評価します。（レポートやワークシート、振り返りカード、発表など）

③「主体的に学習に取り組む態度」

積極的に取り組む意欲や態度を重視して評価します。主に、作業や実習、毎時間の学習への取組状況、作品の提出状況、学習プリントなどを評価します。

【家庭学習のしかた】

時間	学習内容	学習のねらい
70 時 間	○ガイダンス 家族・家庭と子どもの成長 ○わたしたちと家族・家庭と地域 ・自分の成長と家族 ・家庭のはたらき ・家庭生活を支える仕事 ・わたしたちの家庭生活と地域	・小学校の学習を振り返り、3年間の学習の見通しをもたせる。 ・家庭のはたらき、家族の役割について考え、自分のあり方を考えることができる。
	衣生活・住生活の自立 ○自分らしく着る・快適に着る ・日常着の活用 ・日常着の手入れ ・基礎縫い練習 ・環境に配慮した衣生活 ○生活を豊かにする物をつくる ・布を用いたものの製作	・目的に応じた着方、個性を生かす着方の工夫ができる。 ・生活に合わせた無駄のない快適な衣生活を工夫できる。 ・日常着の手入れや補修方法について学び、生活で実践することができる。 ・自分らしさを表現しながら、環境に配慮し、資源を大切に生活の実践について考える。 ・布を用いた物作りを通して生活を豊かにする工夫をえることができる。 ・材料や用具を正しく使い、製作できる。
	食生活と自立 ○健康と食生活 ・食事について考える ・生活のリズムと食事 ・栄養素のはたらきと食品 ・中学生に必要な栄養 ・食品群の分類 ・食事の計画	・食事が果たす役割や健康と食事とのかかわりについて考え、自分の食生活を工夫できる。 ・栄養素について正しい知識を身につける。

休日の食事作りやYシャツのボタンつけなど、授業で習ったことを生活の中で実践してみましょう。
家庭での自分の役割を確認し、自立に向け、さらに自分でできることを増やしていきましょう。

令和7年度 朝霞第一中学校 1 学年英語科学習案内 (CAN-DO リスト)

目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことへの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。
特色	話すこと〔発表〕の活動の軸として、教科書の Stage Activity を活用し、既習事項を用いた単元末活動を実施する。

①領域ごとの達成目標

Stage	聞くこと	読むこと	話すこと 〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
1	友達や身のまわりのことについて知るために、身近な話題についての短い会話やスピーチを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。	友達や身のまわりのことについて知るために、身近な話題について書かれた短い文章を読んで、主な内容を読み取ることができる。	自分のことを知ってもらい相手のことを知るために、好きなことや日常的にしていることなどについて、即興で伝え合ったり、たずねたり答えたりすることができる。	自分のことを知ってもらうために、好きなことや日常的にしていることなどについて、即興で話すことができる。	自分のことを知ってもらうために、好きなことや日常的にしていることなどについて、つながりのある文章を書くことができる。
2	身近な人や有名人について知るために、その人やまわりの日常的な話題についての短い会話やスピーチを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	身近な人や有名人について知るために、その人やまわりの日常的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	身近な人や有名人について相手に伝えたり、自分が知るために、その人のことについて、即興でたずねたり答えたりすることができる。	身近な人のことや自分が好きな有名人について知ってもらうために、その人がどのようなかを話すことができる。	身近な人のことや自分が好きな有名人について知ってもらうために、その人がどのようなかについてつながりのある文章を書くことができる。
3	友達などが経験したことを知るために、その人の思い出や感想などについての短い会話やスピーチを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	友達などが経験したことを知るために、その人の思い出や感想などについて書かれた短い文章を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	自分の経験を伝えたり相手の経験を知ったりするために、思い出や感想などについて、即興で伝え合ったり、たずねたり答えたりすることができる。	自分のことを知ってもらうように、体験したことやその感想などについてまとめて話すことができる。	自分のことを知ってもらうように、体験したことやその感想などを整理して、つながりのある文章を書くことができる。
学年末	身近な人や身のまわりのことなどについて知るために、はっきりと話された日常的话题についての短い会話やスピーチを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	身近な人や身のまわりのことなどについて知るために、日常的话题について簡単な語句や文で書かれた短い文章を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	自分のことを知ってもらったり、相手や身近な人について知ったりするために、自分やその人がしていることや経験などについて、即興で伝え合ったり、たずねたり答えたりすることができる。	自分や身近な人について知ってもらうために、どのような人か、どのような体験をしたかなどをまとめて話すことができる。	自分や身近な人について知ってもらうために、どのような人か、どのような体験をしたかなどを整理し、つながりのある文章を正確に書くことができる。

②単元の授業計画

4月	・学習のポイントを確かめよう ・学び方コーナー ・Unit 0 Nice to Meet You ・Sounds and Letters 0 ・Grammar for Communication 0 ・Unit 1 Hello, Everyone!	・アルファベットの文字と音の関係の理解をもとに、アルファベットの文字の名前と音を声に出して発音することができる。 ・be 動詞や一般動詞を用いた文の理解をもとに、おたがいの名前や好きなものなどについて伝えたり、たずねたりできる。
----	---	---

5月	• Sounds and Letters 1 • Unit 2 Our New Teacher • Sounds and Letters 2 • Grammar for Communication 1 中間テスト	• He [She] isや助動詞 can、This [That] isを用いた文の理解をもとに、身近な人のことやできること、どのようなものかについて伝えたり、たずねたり答えたりすることができる。
6月	• Unit 3 Our School • Sounds and Letters 3 • Grammar for Communication 2 • Unit 4 Friends in New Zealand	• what や who、how や when、where を用いた疑問文の理解をもとに、ものや人、方法や時、場所をたずねたり答えたりすることができる。 • How many ...? や What + 名詞 ...? の疑問文、命令文の理解をもとに、数や時刻、することなどについてたずねたり答えたり、指示や助言をしたりすることができる。
7月	• Sounds and Letters 4 • Grammar for Communication 3 • Stage Activity 1 “All about Me” Poster 期末テスト	• 自分のことを知ってもらうために、自分が好きなことについて情報を整理してつながりのある文章でポスターを書くことができる。
8月・9月	• 夏休み特集 Our Summer Vacations • Unit 5 My Brother in Hawaii	• おたがいのことをよりよく知るために、夏休みにしたことについて、簡単な語句や文を用いて絵日記を書くことができる。 • 三人称単数現在形の文の理解をもとに、自分と相手以外の人やものなどについてたずねたり答えたりすることができる。
10月	• Real Life English 1 コマーシャル • Grammar for Communication 4 • Unit 6 A Rakugo Performer from the U.K. • Real Life English 2 友達の家で 中間テスト	• ウクレレ教室に参加するかを考えるために、テレビのコマーシャルを聞いて、必要な情報を聞き取ったり、その情報を友達に伝えることができる。 • 代名詞や疑問詞 whose、which を用いた文の理解をもとに、人やものについてたずねたり答えたりすることができる。 • 身近な人に許可を求める表現や依頼する表現の理解をもとに、自分がしたいことや相手に頼みたいことについて、伝えたり、答えたりすることができる。
11月	• Grammar for Communication 5 • Unit 7 An Online Tour of the U.K. • Real Life English 3 道案内 • Grammar for Communication 6 • Unit 8 Think Globally, Act Locally 期末テスト	• 現在進行形を用いた文や感嘆文の理解をもとに、人が今していることについてたずねたり答えたり、感動や驚きの気持ちを伝え合うことができる。 • 徒歩での道順をたずねたり、教えたりする表現の理解をもとに、地図を見て道をたずねたり教えたりすることができる。 • 不定詞(名詞的用法)や〈look + 形容詞〉を用いた文の理解をもとに、したいことや人やものの様子について伝え合ったり、たずねたり答えたりすることができる。
12月	• Real Life English 4 レストラン • Stage Activity 2 My Hero	• レストランなどで注文をしたり質問に答えたりする表現の理解をもとに、食事の場面で注文をしたり答えたりすることができる。 • 好きな有名人やあこがれの人がどのような人かを伝えるために、その人についての質問をして答えたり、説明することができる。
1月	• Unit 9 Winter Vacation • Real Life English 5 旅先からの便り • Grammar for Communication 7	• 一般動詞の過去形を用いた文の理解をもとに、過去の出来事について伝え合ったり、たずねたり答えたりすることができる。 • 絵はがきを書くときの基本的な構成や表現の理解をもとに、旅先からの絵はがきを書くことができる。
2月	• Unit 10 This Year's Memories • Real Life English 6 病院にて • Grammar for Communication 8 • Learning Literature in English 国語 学年末テスト	• be 動詞の過去形や過去進行形、There is [are]を用いた文の理解をもとに、過去の状態や気持ち、過去のある時点でしていたことなどについて伝え合ったり、たずねたり答えたりすることができる。 • 体調をたずねたり、病気の症状を伝えたりする表現の理解をもとに、体調

		をたずねたり症状を伝えたりすることができる。 ・物語を楽しんで鑑賞するために、物語の文章構成を意識することで話の概要を捉えたり、話をアレンジすることができる。
3月	・Stage Activity 3 My Favorite Event This Year ・Let's Read Gon, the Fox	・一年間で思い出に残った出来事について、Unit 10 までの学習事項を用いて発表することができる。 ・時間の経過や場面と心情の変化を捉えた読み方の理解をもとに、物語の場面や登場人物の心情の変化を読み取ることができる。

③観点別評価規準と評価方法(＊)

	聞く	読む	話す [やり取り]	話す [発表]	書く
知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。 ＊定期テスト ＊授業内での活動	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。 ＊teamsによる音読課題 ＊授業内での活動 ＊定期テスト	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。 ＊授業内での活動	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。 ＊授業内での活動	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。 ＊単語テスト ＊定期テスト ＊授業内での活動
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。 ＊定期テスト ＊授業内での活動	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。 ＊定期テスト ＊授業内での活動	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。 ＊スピーキングテスト ＊授業内での活動	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。 ＊スピーキングテスト ＊授業内での活動	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。 ＊定期テスト ＊授業内での活動
学習主体的に取り組む	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手

	しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。 *授業内での活動	しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。 *teamsによる音読課題 *授業内での活動	に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。 *スピーキングテスト *授業内での活動	しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。 *授業内での活動	に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。 *ワークシート *提出物 *授業内での活動
--	--	---	---	--------------------------------------	--

観点別評価の評価規準

3つの観点を㊦,A,B,㊧,Cの5段階で評価します。ただし、通知表はA,B,Cの3段階で通知されます。

㊦：十分に満足できるもののうち特に程度が高い A：十分満足できるもの

B：おおむね満足できるもの ㊧：努力を要するもの C：一層努力を要するもの

*達成率は、目安です。テストの平均点や問題のバランスにより多少変化します。

観点別評価と評定の対応関係 3つの観点の合計から評定を算出します。

《評価の例》 ㊦を5点,Aを4点,Bを3点,㊧を2点,Cを1点に換算する。

観点の例	換算点	評定	達成度
㊦㊦㊦, ㊦㊦A	(15,14点)	5	90%程度
㊦AA, AAA, AAB	(11~13点)	4	80%程度
ABB, BBB, BB㊧	(8~10点)	3	50%程度
B㊧㊧, ㊧㊧㊧, ㊧㊧C	(5~7点)	2	40%程度
㊧㊧㊧, CCC	(3,4点)	1	20%程度

④家庭学習のしかた

聞く	- 単語や教科書の本文を音声で確認してみよう。 ①音だけ ②文字を見ながら ③聞き取れたものを書いてみる と、慣れてきたら方法を変えてみよう。 - Podcastを活用して、日本のニュースを英語で聞いてみると、より高度な英語の音声や、話すスピードに慣れることができます。
読む	音読は、正しい発音と文法を同時に覚えることができる勉強方法です。教科書を見ながら、たくさん口を動かして、身体に英語をしみこませよう。
話す	- 英語の勉強は真似をするところから。好きな映画をみながら、セリフを口に出してみよう。 - Duolingoなどのアプリを活用して、家でも英語を話す機会を作りましょう。
書く	正しいスペルを覚えるには、口と手を動かす必要があります。その日に習った単語や文を声に出しながら、ノートに書いてみよう。自分で問題を作って、日本語を英語に直す練習をしよう。

⑤使用教材

①教科書（東京書籍 NEW HORIZON English Course 1）

②ファイル

③英語のパートナー＋書き込みノート（正進社）

④学習ノート（東京書籍）

⑤読みトレ50（浜島書店）